

## 地方自治をめぐる争点



浅野一弘 著  
同文館出版  
2010.4

地方自治に的を絞った著作の出版は、2004年6月30日刊行の『現代地方自治の現状と課題』以来、ほぼ6年ぶりである。

この間も、地方分権改革の動きは進展していた。だが、改革の嚆矢となった「地方分権の推進に関する決議」（1993年）に盛られていた、「東京への一極集中を排除」という課題に関しては、依然、劇的な変化がみられない。現に、『現代地方自治の現状と課題』の刊行日に最も近い統計（2004年7月1日）で、1,248万1,836人であった東京都の総人口は、2010年2月1日の段階で、1,298万9,726人にまで増加している。

こうした一極集中の現象は、東京だけに限ったことではない。地方においては、県庁所在地への人口

の集中がみられる。例えば、2004年6月末時点で、567万8,328人であった北海道全体の人口は、2009年12月末の段階では、13万6,730人も減少している。にもかかわらず、札幌だけを見ると、185万9,400人であった人口が、189万2,452人にまで増加しているのだ。そのため、札幌以外のまちでは、さらなる疲弊がすすんでしまっているのは、周知のとおりである。

こうした問題意識を前提とした上で、本書では、地方自治をとりまく争点の整理を行っている。読者諸氏の忌憚のないご批判をたまわれれば幸いである。

第2開架閲覧室 [318 || A87]

浅野一弘(法学部教授)

## もう一つの経済システム—東ドイツ計画経済下の企業と労働者



石井聡 著  
北海道大学出版会  
2010.2

労働者たちは、職場の作業グループである作業班を単位として、旅行、ハイキング、登山、観劇や映画鑑賞、読書会、スポーツ、ダンス、おしゃべり、ボウリングといった余暇活動を楽しんだ。これら催しには、班員の家族も一緒に参加し、家族ぐるみで班員同士の付き合いが深められた。作業班は、労働者の人間関係の基盤となり、相互の家族も含めたコミュニケーションの場であった。班では、仕事におしゃべりをしたり酒を飲む。子供が風邪をひくと誰かが仕事を代わってくれる。誕生日は皆でお祝いをする。一緒にぶらっと小旅行に出かける。パーティーも開く。病気になった班員の所へは定期的にお見舞いに行く。家族についての相談にも班員が相互に乗った。買い物は、班の代表が全員分の食料やビールを委託されて買ってきた。「我々は一つの

大家族だった。お互いが相手のことを思いやる、真の意味での完全な集団だった。班の雰囲気は実に快適だった。

これは、一般に「全体主義社会」という一言で付けられてしまいがちな、社会主義体制下にあった旧東ドイツの労働者の様子である。本書は、数々の問題を抱えながらも数十年間にわたり存続した「もう一つの経済システム」下の企業や労働者の様子を、ありのままに描こうと試みている。我々は対象に対する「先入観」を持ってしまいがちであるということを再認識するきっかけとして、本書が役に立てば幸いである。

第2開架閲覧室 [332.341 || 175]

石井聡(経済学部准教授)